

オンラインで P4C 報告

2022 年 12 月 17 日 (土) 15:00~ 17:00

場所 オンライン

主催 P4C in schools KANSAI-JAPAN

発表者：松下恭平 名古屋小学校教員

対象：学校関係者

参加費：無料

参加者：12 名

発表内容：「無理なく始めてみるには？まずは少しずつ p4c の要素を道徳授業に取り入れてみる。」

学校での授業の形態

道徳の授業で P4C を取り入れたいが、1 時間の中で問いを決めて、その問いについて語ろうとすると、やはり、時間が足りない。基本的に学活などを使ってユニット化をしている。道徳の授業には取り扱うべき内容項目があるので、子どもに、道徳の時間でのテーマはこういうことについて話し合いたいと思っていますと言って、あらかじめ内容項目を示す。そこで、学活等で先ず個人で問いづくりをする。教科書を読んで、テーマを考えていく上で、疑問に思ったり、不思議だなーと思ったりしたところなどに、先ず線を引かせる。その後、4 人くらいのグループで、各個人が考えた問いをさらにグループの中で一本化してもらうための話し合いの作業をする。この作業の中で、安全性を担保していく訓練もする。各グループでまとめてもらった問いをさらに、1 時間かけて話し合う問いはどれがいいという形で投票してもらう。ここで決まった問を元に、道徳の時間に、話し合いをする。その時は、教師も参加する。

P4C を取り入れた道徳の授業は学期に 2~3 回実施する。

ファシリテーターによる今日の実践

今日の教材を元に、皆さんに問いを作ってもらおう。

教材は「ドッジボール対決」(光村の 5 年生の教科書)

子どもに伝えたテーマは「友情とか信頼ってどうしたらパワーアップするの?」、これを考える点での疑問点はある?

参加者にも、教材を読んでもらって、疑問点をチャットに書いてもらう。

出てきた問い

- ・ 団結していれば、友情や信頼は育まれるのだろうか。
- ・ 勝つことだけが団結に繋がるの？
- ・ 団結ってみんなと同じ行動をすることなの？
- ・ 仲の良さと団結は違うのか？
- ・ 話さないことと団結の関係は？
- ・ どうして人間は、団結したい、って思うの？
- ・ 何をもってして団結になるのか？
- ・ そもそも団結しなくちゃいけないの？
- ・ 仲がよいクラスとは？
- ・ みんなと仲良くする必要はあるのか？

【ほとんどが「団結」に関する問いとなった】

授業で子どもたちもいろいろ問いを出したが、議論したのは「ただ勝つのと団結して勝つのとどう違うの？」【子どもの場合も、「友情」や「信頼」というよりもやはり「団結」】

問いの選択

発表者が、出された問いの中から「そもそも団結しなくちゃいけないの？」を選ぶ。理由は、この問いを皆で話し合っていけば、他の問いともつながっていくと考えたから。

この問いを出した人は、なぜこの問いにしたのか？

団結するのが苦手だから。みんな一緒ということに違和感がある。学校というところは結構みんな一緒という感じがある。このことに小さいころから違和感を抱いていた。

出てきた意見や質問

Q：みんなを引っ張っていくタイプの人がいるということだが、その人は「みんな一緒」に違和感を抱いている人をどうやって引っ張っていくのか。

A：大学に入ってから初めてそういう人があるんだということに気がついた。小中学校の頃はみんな団結したいよねと思っていた。高校に入って、団結したいわけではないよなという感じを抱いた。大学に入って団結したくない人もいるんだと分かった。今だったら、どう団結すべきか迷うと思う。

それぞれ「団結」を巡って自分の経験を語る。

デンマークに留学中、幼稚園でインターンをした時、みんなと仲良くというのが一般的な考えのように感じたが、このような考えはどこから来るのだろうか。社会に出た時の準備ということだろうか。

団結ということと、**仲がいい**ということとはどう違うか。

教師として、若い頃は、無理に子供を団結させていたなと思う。嫌だった子がたくさんいたのではないかと今振り返って反省する気持ち。正直、自分としては、**団結は好きではない**のに、子どもにそれを強いていたのは申し訳なかった。ただ、**仲よくすることは好きだし、協力することは必要だ**と思うが、**団結となると、何か強要されるような感じ**がする。子どもの発言にもあったが、悪い事でも団結ということがあるのではないか。団結ということはよく考えてみる必要があると思う。

ここまでくると、何か団結は悪という感じがする。

例えば、中高の時に一致団結して教師と戦った時などは楽しかったし、充実していた。これは、団結して何かをしようということとは、違っていると思うし、**教員の側として考える団結と、児童生徒が考える団結とは違う**のではないか。

この教材で出している団結と、社会で望ましいと考えられる団結とは違うのではないか。団結しようとして何かをするということではなく、何をするかで結果的に団結していたことが分るということか。あるいは、人を助けるという場合には、一致して何かをするということは有効かもしれない。

団結の場合、誰かの意見を無視するとまではいかないが、説得して変えることも含むのか。

団結して何かをすることと、**協力**して何かをすることとは違うのか。

拘束力が伴うことには嫌悪感を抱く。協力ということとは違う。**教材の場合は団結が自己目的化してしまっている**。こうでなければだめだというようなことになっている。個人の意見がないがしろにされているのが嫌である。

集団の利益と個人の利益が葛藤する場面がある。

教材に対して、子どもたちがなんか変だと思っていたところは、団結化することが目的化していたということではないのか。

団結するということには、**敵がいる**ということがある。**敵がいるから団結する**。教材だと相手のクラスが敵扱いになっている。だけれど団結してみんなが仲良くなるわけではないということは、子どもは理解している。

それでは団結しない方がいいのか。**団結するよさ**ってないのか。

所謂組合活動には団結がいつも求められる。選挙活動などでもそうかも。

子どもたちは、教科書会社が良くないんじゃないとか言っていた。団結なんて言葉を使

わな方がいいんじゃないとか。

以下これを受けての議論

教師は団結とか絆という言葉が好きなので、クラスの目標にしている場合がある。

子どもたちにどんなクラスにしたいかを尋ねると、協力とか団結とかいう言葉が出てくる。これまでの議論を聞いて、なるほど、教員の側にそのような思いがあって、子どもはそうしなければいけないだと考えているのかな、と思った。子どもたちが自分の思いよりも、教員の思いを汲んで行動するということがやばいと思った。

中学校では組の旗を作っているところがある。しかし、運動会などでは、クラスの発表演技などもあって、その場合はそれなりに有効かと思う。ただその場合も、団結ということだけでなく、みんなが納得してその旗を作っていくという状況で、これいいなとか、自分のクラスだとかいう感じを抱いている。

道徳の授業でP4Cが浸透していかない理由は何なのか。

例えば、セイフティということであれば、P4Cでなくても、学級経営でその素地を作っていくのは当たり前でしょって言われたら、返すのが難しい。コミュニティボールではなく、普通の小さなボールではいけないのかもと言われる。P4Cのよさは問いを作って自分の考えをブラッシュアップしていくことだと考えているが、このことがなかなか伝わりにくい。P4C的にフリーな問いで道徳の授業を進めていくことは難しいのかもしれない。

道徳の授業では、子どもが教材を通して、自分の経験や考えを自分の事として語るということだと思っているが、道徳の授業の指導が入る場合、教材研究をして指導案通りに進める方がいいと言われる。教材はそのようなことができるように考えられているということと言われる。登場人物の気持ちを読み取るべき箇所や価値に迫れる場所がいくつかあるのに、それを考慮していない。この教材を使う意味がきちんとあることを考えなければいけないとかと言われる。しかし、子どもの方は色々な意見を聴けて良かったとか、そういうこともあるのかと改めて考えたとか肯定的に受け止めてくれている。

P4Cは理念だと思っている、手立てというよりも理念。手立てと考えると他のものでも代用できるとなるので、理念とかそういうものだと思っている

ここで言うP4Cの理念というのは、これまで話してきたP4C マインドのようなものではないのか。ある意味、P4Cではなくても、それなりの授業であれば、P4Cマインドが見て取れる。方法論やスキルに留まることはないのではないかと。

問いを立てるということが、教師も子どもも平等にしてくれる。「なぜ」「どうして」という問いは大人であれ、子どもであれ、発することができる。このような問いが開かれ

た形で常に問える場というものが、大人も子どもも平等な場を作ってくれるのではないか。この問いが哲学なので、これが P4C の特徴なのではないか。反例を挙げたり、理由を聞いてあげたり、自分の考えを論理立てて発表していける場は、やはり P4C の特徴ではないか。クラスが仲良くなるにはいろいろな手立てがあり、先生方も工夫されているが、P4C の場合、安心、あるいは仲が良いというのは、相手の話を聞いてお互いに尊重しあう。

教材も大切だけど、目の前の子どもをもっと大事にすべきではないか（親として）。

問うことは道徳とは相性が悪いのではないかと思っている。道徳と哲学対話の趣旨とはやはり違うと思う。内容項目に迫れたとか、教科の枠組みがすでに哲学対話とは違うのではないかという思いを持っている。そこに無理やり P4C を当てはめようとすると、先ほどあった発言のような指摘を受けるのかなと思ったりする。極端な言い方をすると算数の時間に国語をしているなどという感じがしている。今ここで話題にしているような道徳は、所謂道徳ではないという矛盾ではないか。

内容項目は別にして、道徳教育の目標は P4C とは矛盾しないと思う。学習指導要領の内容からすれば、別におかしいことはないけど、価値項目について研究されてきた道徳の先生にとっては、P4C はこれまで作り上げてきた教材を否定されるのではないかという危惧もあるのかなと思ったりする。しかし、これまでのやり方のままでいいのですかという投げかけは必要なのではないか。

教科書をではなく、教科書で教えているのであれば、教科書の編集者も問題はないというはず。教科書の指導の通りにやる必要はない。一つの教材の中に複数の価値項目が含まれているのは普通のことであり、複数の価値から多面的多角的に見るならば、こういう項目が大事にされているよね、問いのような形で授業をすれば、違和感は少しずつ減っていくのかなと思う。

子どもの意見を教科書会社に届ける必要もある。